

中東音楽レクチャー・コンサート

アレppoの伝統で学ぶ アラブ旋法



ムハンマド・カドリー・ダラール(ウード)
アブドゥ・ヒンディー(歌)
サラーフ・バクル(リック)
飯野りさ(解説)



日時 2018年12月1日(土) 17時開演(16時30分開場)

場所 東京大学駒場キャンパス 駒場コミュニケーション・プラザ北館2階 音楽実習室
(井の頭線駒場東大前下車、駅東口を出て正門からキャンパスに入り徒歩5分)

お問い合わせ: 飯野りさ iino@u-sacred-heart.ac.jp

主催: JSPS科研費課題番号18H00626基盤研究(B)「中東少数派の音文化に関する研究—共有と非共有に着目して—」(研究代表者 飯野りさ)

共催: 東京大学中東地域研究センター

なお、このレクチャー・コンサートは東洋音楽学会東日本支部第106回例会第II部として実施されますが、どなたでもご参加いただけます。

科研費
KAKENHI

アレッポとアラブ音楽、アラブ旋法

アジアの東の果てと西の果てをつなぐシルクロード。アレッポはその西の終点の一つとして商業・交易の都市として栄え、食通の町として、またムワッシャフやカッドなどの伝承歌謡で名高い歌謡文化の都としても知られてきた。このレクチャー・コンサートでは、シリアの古都アレッポを代表する音楽家ムハンマド・カドリー・ダラール氏が、アレッポの歌謡の伝統を日本で再現する。

伝統的なアラブ音楽は旋法音楽であり、伝承歌謡は基礎的な旋法(旋律様式)を使ったものから、技巧的なものまで数々のレパートリーがある。このレクチャー・コンサートではアレッポで歌われてきたレパートリーを用いて、アラブ旋法の基本をコンサート前半で紹介し、聴き方のコツを体験してから、後半で詩の朗読などを含んだアラブ歌謡を伝統的な組曲形式で聴く。

2011年から続く内戦により、多くの文化遺産が壊滅的な打撃を受けているアレッポ。アレッポ生まれのダラール氏も現在はエジプトのアレキサンドリアに居住して、演奏活動を続けている。今回はダラール氏の教えを受けたアレキサンドリアの若手音楽家たちが演奏に参加する。

ムハンマド・カドリー・ダラール(ウード)

【写真中央】 1946年シリアの古都アレッポに生まれる、アレッポを代表するウード奏者、伝承歌謡の膨大なレパートリーを記憶する。1988年、リリースしたLPがフランスのシャルル・クロ・アカデミーから賞を受賞。シリア国内だけでなく、アラブ諸国、そして世界各国で多くの音楽祭に出演。多国籍アラブ音楽アンサンブルとして知られているアンサンブル・アル＝キンディーでもCD録音やコンサート活動等で活躍。現在はエジプトのアレキサンドリア在住。

アブドゥ・ヒンディー(歌) 【写真左】 アレッポ出自の祖父を持ち、エジプトに生まれる。近年、ダラール氏にアレッポ歌謡を本格的に学び、活躍している。

サラーフ・バクル(リック) 【写真右】 アレキサンドリア生まれ、打楽器奏者。近年はダラール氏と演奏をともにし、エジプト国内だけでなく海外の音楽祭などにも参加。

飯野りさ(解説) 日本学術振興会特別研究員(PD)、アレッポでダラール氏に伝承歌謡を師事。著書『アラブ古典音楽の旋法体系ーアレッポの歌謡の伝統に基づく旋法名称の記号論的解釈ー』(2017年、スタイルノート)が、東洋音楽学会第35回田邊尚雄賞受賞。

「中東音楽レクチャー・コンサート」シリーズ

このレクチャー・コンサートは、科学研究費補助金(基盤研究(B))「中東少数民族の音文化に関する研究ー共有と非共有に着目してー」の研究活動の一環として行われます。今年度はその第一回目にあたり、シリアの古都アレッポの音楽を通して中東音楽の基本である旋法を学ぶことを主眼としました。第二回目の来年度は、クルド音楽をテーマとする予定です。



----- ご案内 -----

← 飯野りさ著『アラブ音楽入門ーアザーンから即興演奏までー』(2018年、スタイルノート) 初心者向け入門書、好評発売中。

姉妹本もあります。飯野りさ著『アラブ古典音楽の旋法体系ーアレッポの歌謡の伝統に基づく旋法名称の記号論的解釈ー』(2017年、スタイルノート)。